

教員名	橋田 浩一 教授	研究場所	本郷	研究分野	パーソナルデータの管理運用
-----	----------	------	----	------	---------------

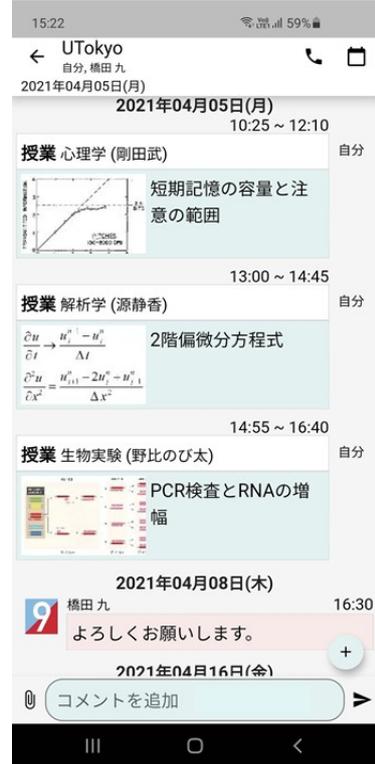
本研究室では、パーソナルデータを本人(の AI)が管理し活用することを支援する技術(PLR)、それに関連する自然言語処理やオントロジー工学、およびそれらに基づくサービスについて研究開発し、これらを実社会に適用することにより、エビデンスに基づく自律分散協調的な社会の構築を目指している。そのための学術研究だけでなく、産学官連携による実証実験や政策提言にも取り組んでいる。

URL: <http://www.sict.i.u-tokyo.ac.jp/members/hasida/>

## PLR (個人生活録)

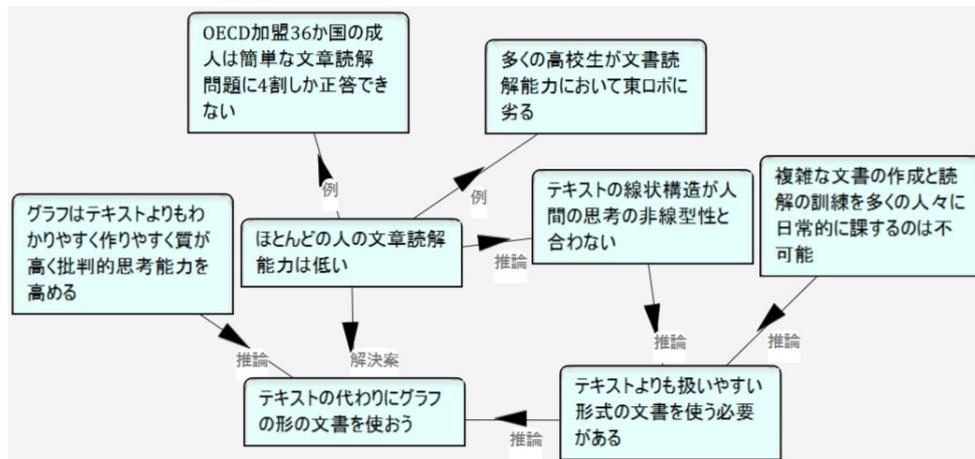


パーソナルデータの管理運用をデータ主体本人に集約することにより、本人(の AI)がそのデータを自ら活用するとともに安全に他者と共有して活用することができれば、事業者は大量のパーソナルデータを保管するコストやデータ漏洩のリスクを免れ、個人は自分の利益を最大化するように自分のデータを活用できるので、個人向けサービス全般の価値が高まるだろう。PLR (personal life repository)は、個人によるそのようなデータの管理運用を支援するミドルウェアであり、利用者が何億人でもアプリの保守コストだけで運用できるスケラビリティの高い仕組みである。個人情報保護法改正や教育の IT 化や医療制度改革に伴い、さまざまなパーソナルデータが個人に集約される可能性があるが、PLR はそれを促進して価値を最大化するための最も安全で安価な手段と考えられる。本研究室では、PLR のさまざまなサービスへの応用や関連する社会制度について研究しており、右上の図の UTokyo アプリ(東大生向け PLR アプリ)の開発もその一環である。



## 知的コンテンツ

文書による情報共有と合意形成は社会の運営に不可欠であるにもかかわらず、成人の平均的な文書読解能力はかなり低い。この問題はAIや教育では解決しないので、作成・読解が容易な新しい形式の文書が必要であり、下図のようなグラフ文書がその有力な候補と考えられる。



単独の著者による文書作成においても複数の著者による共同作成においても、グラフ文書は従来のテキスト文書よりも統計的有意に質が高いことが、当研究室での実験によってわかっている。したがって、適切な編集アプリを提供してグラフ文書を普及させれば、社会全体の知的生産性を飛躍的に向上させることができるだろう。そこで本研究室では、PLR を組み込むことにより安全・安価に文書データを共有して共同編集できるグラフ文書編集アプリ(セマンティックエディタ)を開発している。さらに、グラフ文書に基づく多様なサービスを相互連携させたり、多数のグラフ文書データを集めて統計分析等により知識獲得したりするための研究を進めている。